

小中高連携を意図した表現運動・ダンスの授業研究[†]

—小中高の実践事例を中心に—

茅野 理子*・八嶋 純子**・中野 恵子***・影山あや子****

宇都宮大学教育学部*

矢板市立矢板小学校**

小山市立小山城南中学校***

栃木県立宇都宮南高等学校****

概要

平成 24 年度から完全実施される中学校でのダンス授業の必修化を受けて、小中高の連携をどのように図るのがよいのか、各ステージで何を目的としてどのように指導していくべきか、その際に課題となることは何かを明らかにするために、実践を通じた事例報告により問題提起を行った。好きにさせ、多様化を図る小学校段階、広げ、深めていく中学校段階、それぞれのダンスに向かっていく高校段階の報告により、小中高の連携の観点を示した。今後はその発展となる教育プログラムの開発が課題となった。

キーワード： 表現運動，ダンス，必修化，小中高連携，教育的意義，学習内容

1. はじめに

中学校におけるダンスの必修化が平成 24 年度から完全実施されるにあたり、ストリートダンスが必修化になるような風潮がある。しかし、ダンスの内容は、創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンスの主要な 3 つから成り、ストリートダンスだけではない。一方、指導者側からは、ダンスの指導に苦手意識を持ち敬遠されがちであるという問題点が早くから指摘されている。改めてダンスの意義を問い直し、そのために各段階で何を、どのように指導していくべきかについて提言し、必修化に向けた教育プログラムの開発を行うことを目的とし、本報告では小中高の実践報告を通して、問題提起を行う。

2. 必修化の背景

文部科学省では、平成 20 年 3 月 28 日に中学校学習指導要領の改訂を告示し、新学習指導要領では中

学校保健体育において、武道・ダンスを含めたすべての領域を必修とすることとした。文科省のホームページ ([http:// www.mext.go.jp/ a_menu/ sports/ jyujitsu](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu)) では、中学校において武道・ダンスを必修化する理由について、次のように説明している。

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する視点から、多くの領域の学習を十分に体験させた上で、それらをもとに自らが更に探求したい運動を選択できるようにすることが重要で、このため、中学校 1 年・2 年でこれまで選択必修であった武道とダンスを含めすべての領域を必修とし、3 年から領域選択を開始することとする。また、武道の学習を通じて、我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるようにする。

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、

[†] Masako CHINO*, Junko YASHIMA**, Keiko NAKANO***, and Ayako KAGEYAMA**** ; Study on Coordinated Dance Education for Elementary, Junior High, and High School.

* Faculty of Education, Utsunomiya University

** Yaita Elementary School

*** Oyama-jyonan Junior High School

**** Utsunomiya-minami High School

「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

そして、中学校武道・ダンスの必修化に向けた条件整備として、文部科学省では、平成 24 年度からの中学校学習指導要領の完全実施に向けて、各学校で武道・ダンスを安全かつ円滑に実施できるよう、指導者・施設・用具の観点から、各教育委員会の取組を支援しているとして、具体的に以下のことをあげている。

【指導者の養成・確保】

中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校：平成 24 年度から必修となる武道・ダンスを円滑に実施できるよう、地域の指導者や団体・武道場等を活用することで、中学校における武道・ダンスの指導の充実を図るための実践的な研究を行う。

地域スポーツ人材を活用した運動部活動等推進事業：児童生徒が多様なスポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに、教員の負担を減らし、多くの児童生徒と向き合う時間を確保する観点から、地域スポーツ人材（外部指導者）の活用等について実践的な研究を行う。…（後略）

では、実際にそれぞれの教育現場ではどのような指導がなされ、課題となっているのは何かを事例報告を通してみていきたい。なお、本報告は、平成 24 年度宇都宮大学地域連携活動事業の一環として行われた公開授業及び研究発表会において発表されたものであり、小中高の各テーマは、指導の系統化・明確化として示された、4・4・4の発達の括り（表 1）に沿って設定された。

3. 公開授業及び研究発表会

公開授業及び研究発表会の概要は以下に示す通りである。

（1）期日 10 月 19 日（金）

（2）会場 宇都宮大学第 2 体育館

同 大学会館多目的ホール

（3）参加者 小・中・高・盲・聾・特別支援学校・大学の教員，社会体育指導者，学生等 72 名

（4）内容

1）公開授業

「小中高連携を意図した指導内容とその方法―典型教材「しんぶんし」を用いた 1 時間完結学習―」

2）全体会 趣旨説明

①宇都宮大学地域連携活動事業について

②本県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について―アンケート調査から―

宇都宮大学教育学部 茅野 理子

3）研究発表

①小学校部会

「楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実際」

矢板市立矢板小学校 八嶋 純子

②中学校部会

「創作ダンスの啓発と普及をめざして―小山市の取り組み―」 小山市立城南中学校 中野 恵子

③高等学校部会

「学習指導要領の改訂に向けて―宇都宮南高校の現状と今後の課題―」

栃木県立宇都宮南高等学校 影山 あや子

（④研究協議と⑤指導講評については省略。）

なお、公開授業は本学教育学部専攻専門科目「ダンス A」（1 年次生対象）の授業として、筆者が指導し、小中高それぞれの段階で押さえておくべき学習内容を発表した。本稿では省略する。

以下、それぞれの発表原稿にそって報告する。

表 1. 4・4・4の発達の括りによる表現運動・ダンスの発展（村田，2007）

小学校低・中学年	小学校高学年・中学 1・2 年	中学 3 年・高校 3 年間
いろいろなリズムや表現の遊びを体験して、多様な身体感覚やコミュニケーションの基礎を身に付け、踊りが好きになる段階	いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性（楽しさや魅力）に触れる段階…中学 1・2 年までダンス必修化	好きなダンスを選び、時・場所・仲間に応じてダンスを再構成・創造してダンスの特性を深める段階…選択制への移行
楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実際	創作ダンスの啓発と普及をめざして―小山市の取り組み―	学習指導要領の改訂に向けて―宇都宮南高校の現状と今後の課題―

村田芳子（2007）表現運動・ダンスの学習内容について考える。体育科教育 55(5)：35-39.

小学校部会

「楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実際」

矢板市立矢板小学校 八嶋 純子

小学校部会からの実践報告は、小学校学習指導要領に則り、小学校段階で身に付けさせたい動きや態度について、楽しさの体験と多様な動きの体験に焦点をあて、そのための指導の工夫について、低中学年それぞれの段階からの提言があった(次頁参照)。

このような工夫された指導によって、表現運動・ダンスを好きにさせておくことが、中学校での取組の如何につながっていくと考えられる。

続いて、中学校部会からは、作品発表の様子をビデオで鑑賞することによって、報告された指導の要諦を具体的に認識することができた。

* 研究発表会の様子

【研究発表1】

小中高の各部会からテーマに沿った事例報告があり、各段階のねらいと学習内容を相互に確認。



【研究発表2】

質疑応答では、学生からも積極的な発言があり、各教育現場と学生が学び合う場ともなった。



中学校部会

「創作ダンスの啓発と普及をめざして—小山市の取り組み—」 小山市立城南中学校 中野 恵子

中学校部会からは、ダンス領域の3つの内容のうち、現場の教員がもっとも苦手とする創作ダンスの指導について、59回の発表会を通して普及啓蒙に取り組んできた活動について報告があった。

(1) はじめに

小山市では、毎年11月上旬に、小山市文化センター大ホールにおいて創作ダンスの授業作品の発表を、午前の部小学校、午後の部中学校にわけて開催している。

その意義は、つぎのようにまとめられる。

《生徒》

- ①発表会に向けて全生徒が意欲的に授業に取り組むことができる。
- ②発表会の場を生徒に経験させることにより、次年度への課題を見つけることができる。
- ③発表会を通して、仲間や他の学校の発想や動きの良さを学び、ダンスへの関心・意欲を高めることができる。

《指導者》

- ①定期的に研究会を開き、指導法や知識を身につけることができる。
- ②指導者としての今後の見通しをもつことができる。

①、②を通して指導力の向上へつなげる。

(2) 学年毎の展開

- 1年生：モチーフの動きに変化をつける。取り組みやすいテーマを選出
- 2年生：隊形の変化・動きの工夫
- 3年生：感じを込めて踊ったり、イメージを深めた表現づくり

(3) 成果

《生徒・指導者》

- ・鑑賞し合い、互いの良さを学び合うことができる。
 - ・意欲の向上
 - ・指導力の向上
- ### (4) 課題
- ・実技研修会の充実
 - ・授業づくりの工夫
 - ・発表の分野を広げる

テーマ『楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実践』

発表者 矢板市立矢板小学校 八嶋 純子

1. 小学校学習指導要領解説から

領域構成と内容	
1・2学年	3・4学年 5・6学年
【表現リズム遊び】	【表現運動】
表現遊び	表現
リズム遊び	リズムダンス
	フォークダンス

※3・4学年 内容の取扱い 【表現運動】に地域や学校の実態に応じて「リズムダンス」を加えて指導することができる。

※5・6学年 内容の取扱い 【表現運動】に地域や学校の実態に応じて「リズムダンス」を加えて指導することができる。

1・2学年	3・4学年	5・6学年
【表現リズム遊び】	【表現運動】	【表現運動】
「表現遊び」 →身近な動物や乗り物などのいろいろな題材の動きや特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊る。	「表現」 →表したい題材を見付け、その主な特徴や感じをとらえてひと渡れの動きで即興的に表現したり、グループで「はじめ-なか-おわり」を付けた踊りなどを楽しんで踊る。	「表現」 →表したい感じやイメージを表現するように、変化を付けたひと渡れの動きで即興的に表現したり、グループで「はじめ-なか-おわり」を付けた踊りなどを楽しんで踊る。
「リズムダンス」 →懐かしいリズムの音楽に乗って解りやすく踊ったり、友達と関わりを合わせたりして楽しく踊る。	「リズムダンス」 →懐かしいリズムの音楽に乗って解りやすく踊ったり、友達と関わりを合わせたりして楽しく踊る。	「表現」 →伝承されてきた日本の地域の踊りや外国の踊りから、踊り方の特徴をとらえ、基本的なステップや動きを身に付けて、音楽に合わせてみんなで楽しく踊ることができるようになる。

2. 小学校で身につけさせたい動きや態度についての内容（学習指導要領解説の言葉から抜粋）

- ① 1・2学年…跳ぶ、回る、おじる、這う、すばやく走る、高低の差や速さに変化、様々な語に対する、リズムに乗る、楽しく、なごめる、弾む、友達と調子を合わせる、繰り返して即興的に踊る、まねをして踊る、音楽に合わせてみんなで踊る
- ② 3・4学年…特徴を返す、「はじめとおわり」をつけた動き、リズムに乗って、全身で跳び、友達とかわる、即興的に踊る、動きにアクセントをつける
- ③ 5・6学年…特徴をとらえて、即興的な表現、「はじめ-中-おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動き、変化や起伏のある動き、群の動き、多様な題材、表したい感じやイメージを強調、ひとまとまりの動き、互いのよさを認め合う、個人やグループの持ち味を生かす、ひと渡れの動きにして表現する
- ④ 全体として…自分の心身を解放す、なりきって踊る、踊りの楽しさを十分に味わう、互いの良さを生かし合って仲間と交流 → 踊ること・表現することが『楽しい!』

「楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実践」
(低学年：1学年の取り組み)

実践1 「リズム遊び」・心も体もダンサーになりきって踊っちゃおう！
(映像あり) ・友達と一緒に踊る楽しさを味わう。
・ドラえもんの挿入歌「生きてる生きてく」の曲に合わせてノリノリで踊りました。
【J】 福山雅治「生きてる生きてく」

実践2 「びよびよちゃん」まねっこ遊び
(映像あり) ・先生の真似をして、いろいろな動きにチャレンジしよう！

T 「びよびよちゃん。」

C 「何ですか。」

T 「こんなこととこんなことできますか。」(動く)

C 「こんなこととこんなことできますよ。」(真似して動く)

※跳ぶ、回る、転がるなどいろいろな動きを真似させる。

実践3 「だるまさんが転んだ」遊びの動きから表現へ

(映像あり) ・急にストップするスリルといるいろいろな形のポーズがおもしろい。

T 「はじめの一步!」

T 「だるまさんがころんだ。」

C (移動) → ストップ

T 「だるまさんがころんだ。」

C (移動) → ストップ

実践4 「なりきって～変身」遊びの動きから

★ 森の中にいるもの・あるものに変身

(虫、リス、蛇、きのこ、大木など)

★ 海にいますもの・あるものに変身

(魚、鯨、イソギンチャク、わかめなど)

★ 遊園地にあるものに変身

(観覧車、ジェットコースターなどなど)

★ ロボットに変身してやってみよう

実践5 「教師の言葉かけ～くっつき虫」遊びの動きから

☆ おへそをいろいろな方向に向けてみよう。

☆ 誰かの体の一部とくっついてみよう。

(頭、手、足、おしり、背中など)

☆ 友達とくっついてみよう。

(1人、2人、3人・・・)

※見ている人は、感想を一言プレゼントとして発表させるのもよいです。
※意欲的に取り組めるように「あてっこゲーム」のような方法を取り入れても楽しいです。

【真岡市立真岡東小学校 馬橋 登志子】

「楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実践」 中学年：3学年の取り組み

- 1 はじめに
中学年の「表現運動」は、低学年の時に体育の授業等で扱った種がすくなく伸びはじめを広く広げはじめます。授業の組み方や言葉かけの工夫によって、教師がびっくりし感動するような多様な動きが飛び出します。もし低学年の頃、「表現運動」の種時がなされていなかったとしても（本当はあってはいいけれども）、心も体もまだ未熟（下記 中学年期の発達特性 参照）なので、学習指導要領に示されている運動内容の目標達成はできないと思います。
指導者が指導者を諦め、いつまでも花は咲かないのではないでしょうが、失敗だらけの経験からの提案です。



- 2 中学年期の発達特性（表現運動）
(1) 表現したい内容の動きの感じをいろいろなテーマでとらえられれる。
(2) 表現したい感じを体の部位を意識して動くことができる。
(3) 一つのこと（対象物）を詳しくとらえ、変化をつけて動くことができる。
(4) いろいろな新しい動きの開化ができる。
(5) 部位を全体から抜き出して、練習できる。
(6) 友だちと動きながら合わせて表現できる。
(6) 友だちと動きながら合わせて表現できる。

- 3 本授業の経緯
高槻市立中央小学校3年生（17人、特別支援学級2人、計19人）
本校の3年生ですが、中学年の「表現運動系の領域」のうち、「リズムダンス」については春季運動会にて中学年ブロック担任チームの指導の下、作品を仕上げ発表しました。
ここでは、「表現」の授業づくりに苦戦していた先生の学校をお借りして実践した「表現」導入授業を紹介いたします。小学校で身につけさせたい動きや態度について「から」楽しさや喜びに触れ、即興的に表現、表したい感じを表現した初歩的段階の授業です。

- (1) 1時間の流れ
① ウォーミングアップ
仲間づくり、びびたんこ、ダンゴゴコロコロ、赤ちゃんはいはい、熊歩き・・・
② 新聞紙を使って・・・風に飛んで走ろう（簡単なひとながれ）
はじめのポーズ、新聞紙をもって走る、投げたキャッチ、おわりのポーズ
3回くりかえす、新聞紙をおなかにつけて走る・・・動きが大きくなってきた
③ 新聞紙のお片付け
丸めてボールを作って2人組で重なり合っ（大ビニール袋に入れる）
④ クールダウン
紅白対抗新聞紙ボール付け（大ビニール袋に入れる）

- 映像あり
映像なし
体育館の床いっぱい広がって寝転が
びびたんこびびたんこ、自分の背中と床がびびたんこ・・・声かけ
静かに床の音を聞かせる・・・教師が床をたたいて、数を心の中で数えさせる。
（びびたんこびびたんこ、自分の耳と床がびびたんこ・・・声かけ）

- (2) 反省いろいろ（自己評価）
① 見切り発車のかなない強い強い強引な授業だった。
② はじめに発車のおわりのポーズにもっと工夫が欲しい。（特徴的なポーズの原案を渡す等。）
③ 「どんな風がよいポーズの？」と投げかけ、3年生のイメージを膨らませていく。
④ ウォーミングアップと新聞紙への動きが連動していない。新聞紙をメインにもっていくならウォーミングアップから新聞紙を使って・・・の方がイメージが広がり多様な動きにつながる。
⑤ 「うわーっという動いて汗かいた」「楽しかった」と言う自然な児童の声と、「ぜひ勉強してみたいです。」と言う担任の言葉に救われた。

- 4 おわりに
やればよかっただけの成果が目に見えて分ける体育科「表現運動領域」だとも思います。
今回、本校（普通7年級 特別支援1年級 原人数197人）において、6学級の協力を得て、それぞれ1時間の授業実践ができたことで、体育の指導者として、目の前の児童にどういう力や体力をつけていかねばならぬかを考えることができました。

【高槻市立中央小学校 村島恵美子】

「楽しく・多様な動きを生み出す表現運動の実践」 高学年：6学年と異学年交流の取り組み

実践1 「スポーツ」を題材にして（第6学年）

- 学習の目標
・浮かんイメージを次々と全身を使って動く。
・動きを工夫し、ひとまとまりの作品をつくる。
2 学習の進め方（3時間扱い）



学習活動	指導の要点
第1次「いろいろなスポーツに挑戦！」 1 思いっぴき限りのスポーツを決めて一人 2 動いてみたスポーツを決めて一人 で動く。 3 3人組になって、リーダーに続いて 動く。	・W-upでスポーツの練習をし、さ ・そのスポーツの特徴的な動きを繰り返 して動いてほしいことを知らせる。大きく 動いている子の見本を見せる。 ・リーダーはメンバーにスポーツ名を知 らせる。同じ動きを何度も繰り返しても よいし、同じ動きを何度か繰り返しても よいし、動きを添えてもいい。ただし、 はつきり大きく動かないこと。メンバー の動きが伝わりやすいことを知らせる。 Point★止まらずに動く ★繰り返して動く ・動いてみておもしろかった動きを選 ぶと良い。 ・特徴的な動きを繰り返したり、大きく 動いたりするよう伝える。 Point★ビデオの再生機能を使い出させる ・繰り返し・早送り・一時停止 ・再生・巻き戻し ・感動の名場面や伝えたいところをこれ 以上無理というくらい大きく動くよう 指示する。
第2次「動きのパワーアップ？」 1 グループで決めたスポーツの動きを いろいろ取り上げ繰り返して動いてみる。 2 動きをパワーアップさせる方法を 知る。 3 一番表したい場面、特徴的な動きを 一つに絞って、パワーアップさせる。	・特徴的な動きを繰り返したり、大きく 動いたりするよう伝える。 Point★ビデオの再生機能を使い出させる ・繰り返し・早送り・一時停止 ・再生・巻き戻し ・感動の名場面や伝えたいところをこれ 以上無理というくらい大きく動くよう 指示する。
第3次「オリンピックデザインエ スト 矢小版」 1 始まり方と終わりを工夫する。 2 通して何度か練習し、動きを確認す る。「オリンピックデザインエ スト 矢小版」を発表する。	・一番伝えたいところを確認し、さら に動きのパワーアップができないか、グル ープごとに相談させる。 ・練習してきてきた動きに印象的な始めと終 わりのポーズや動きをつけさせる。 ・グループの作品を次々とつなげていく とさまざまなスポーツのデザインエ ストになる。 Point★恥ずかしがらずに大きく動く

- 3 児童の様子
体育館中を体を大きく使った動きができていた。この瞬間は、心も体も解放さ
れていたと思われる。
・ロンドンオリンピックビビたんこ、動きを生み出していた。
・「動きのパワーアップ」をする前は、試合の様子を忠実に再現するだけの児童が多
かった。ビデオの再生機能を利用した説明は、動きをパワーアップをイメージさせ
るのにたいへん有効であった。

- 実践2 リズムダンス「会いたかった」（異学年交流バージョン）
1 対象学年 1～6年（夏休み、サボデー「みんなが踊ろう」受講者）
2 AKBになるために
・各組でみんな楽しく踊ろう
・間違ってもいいから、堂々。
・わたし（ぼく）がセンター。

【矢板市立矢板小学校 八嶋 純子】

高等学校部会報告

「学習指導要領の改訂に向けて―宇都宮南高校の現状と今後の課題―」

栃木県立宇都宮南高等学校 影山 あや子

(1) 新旧学習指導要領でのダンスの取り扱いの違い

現行の学習指導要領				新学習指導要領(H25～)			
領域及び内容	入学年次	次の年次	その次以降	領域及び内容	入学年次	次の年次	その次以降
? B? ? ? ? ?				? B? ? ? ? ?			
【C陸上競技】			B, C, D, E, F, Gから2または4領域選択	【C陸上競技】		B, C, D, Gから1領域以上選択	
【D水泳】	B, C, D, E, F, Gから3または4領域選択		(その際、FまたはGのいずれかを含む)	【D水泳】			
【E球技】				【E球技】	E, Fから1領域以上選択	B, C, D, E, F, Gから2領域以上選択	
【F武道】				【F武道】			
【Gダンス】				【Gダンス】	B, C, D, Gから1領域以上選択		

新学習指導要領解説では、「生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質や能力をはぐくむため、12年間を見通して、体系化を図る中で入学時は中学校第3学年と同様の選択の仕方に改善を図るとともに、その次の年次以降は領域選択の一層の弾力化を図ることとしたものである。」としているため、高校新学習指導要領では3年間でダンス・武道を選択しないこともある。

(2) 本校のダンスの授業実践

本校の年間計画でのダンス授業の位置付けは表1の通りである。また、単元計画(1年次)は表2のようになっている。

(3) 本校のダンスの授業における課題

図1にみられるように、授業前のアンケートからは、「大好き」「好き」あわせて95%であり、ダンス選択者のほとんどがダンスを好きであることがわかる。

また、ダンスの魅力について尋ねたところ(表3)、「とてもそう思う」と回答したのは、「作品ができあがったときの達成感」60%、「いろいろな音楽のリズムにのって踊る」56%、「友達と一緒に踊る楽しさ」53%の順であった。「とてもそう思う」と「そう思う」をあわせた回答では、僅差ではあるが、「友達と一緒に踊る」「仲間との一体感」「既成の創作作品を覚えて踊る」「人が踊っているのを見る」の順で上位であった。

一方、「自分の踊りを人に見てもらう」は約6

授業前アンケートから①(あなたはダンスをどう思いますか?)

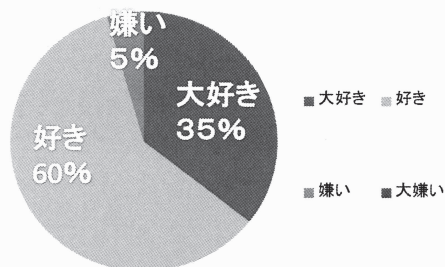


図1. 授業前アンケート

割が、「いつもの自分と違った自分になれる」は約5割が苦手なこととして回答している。

このような生徒の実態を踏まえて、本授業では「現代的なリズムのダンス」を取り上げて実施した(表2参照)。授業の流れを以下に示す。

- 自校体操・ストレッチ
- 集合・あいさつ・本時の目標を伝える
- 準備運動ダンス
- 本時の課題のダンス
- 集合・まとめ

(4) 高校のダンスの授業における課題

成果としては、以下のことが挙げられる。

- ・ 様々なリズムのダンスを経験することによって、生徒の学習への意欲を喚起できた。
 - ・ アイソレーションなど難しい課題に挑戦することで、ダンスの楽しさを感じることができた。
- 一方、課題は、次のようなことである。
- ・ 生徒がダンスを創り出すための工夫
 - ・ 現代的なリズムのダンス中心の授業により、一方向的な授業になってしまう→仲間同士の教えあいや、グループで踊れるような工夫が必要
 - ・ 男女共修のダンスの授業

また、高校のダンスの授業における課題として、

- ・ 中学1・2年で武道・ダンスが必修化になったが、高校ではダンス・武道どちらも選択しないことができる。
- ・ 小学・中学校向けのダンスの教材が多い。
- ・ ダンス指導者講習会などへの積極的な参加が求められる。

が挙げられる。

以上、高校での課題を考えると、中学校段階において、「いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性(楽しさや魅力)に触れる段階」とさ

れながら、創作ダンス系の体験が希薄なのではないかと推測される。ダンスの運動特性は「踊る・創る・観る」にあると言われるが、前述したように、現場では創作ダンスの指導を苦手としている教員が多い。

また、現代的なリズムのダンスの学習においても

創作ダンスと同様、「自由に動きを工夫して踊る創造的な学習」とされているものの、現実的には、既成のダンスを覚えて友達と一緒に踊ることに終始していることが多いのではないかと考えられる。そのための普遍的な指導方法の確立が望まれる。

表 2. 本校の年間計画

栃木県立宇都宮南高等学校														
学期			1 学 期				2 学 期				3 学 期			
月			4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
学年	単位	週												
1 年	男 子	3	集団行動 自校体操 体づくり運動 新体力テスト 体育理論			水 泳		武道 (選択) 柔道 剣道 ダンス	長距離走		サッカー		バスケットボール	
	女 子	3	集団行動 自校体操 体づくり運動 新体力テスト 体育理論			水 泳			長距離走		バレーボール		バスケットボール	
2 年	男 子	2	体づくり 体育理論 新体力テスト	選択 ソフトボール バレーボール 卓球		水 泳		武道 (選択) 柔道 剣道 ダンス	長距離走		サッカー		バスケットボール	
	女 子	2	体づくり 体育理論 新体力テスト	選択 ソフトボール バレーボール 卓球		水 泳			長距離走		バドミントン		バスケットボール	
3 年	男 子	2	体づくり 体育理論 新体力テスト	選択 バレーボール バスケットボール バドミントン ソフトボール 卓球			水 泳		武道 (選択) 柔道 剣道 ダンス	長距離走		サッカー		
	女 子	2	体づくり 体育理論 新体力テスト	選択 バレーボール バスケットボール バドミントン ソフトボール 卓球			水 泳			長距離走		バドミントン		
	選 択	2	体づくり	陸上競技 (短距離走)			器械運動 (マット運動・鉄棒)		スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びダンスより選択					

表 3. 単元の指導計画【1 年】

時間	学習内容	指導上の留意点
1	ダンスオリエンテーション ・単元の特性について ・単元の目標、学習計画、学習の進め方について ・授業前アンケート	・単元の目標、学習の進め方について理解させる。
2	準備運動ダンス ・クラスオリジナルの準備運動のダンスを創る (STEPS「5, 6, 7, 8」)	・8 呼間の動きをグループに分かれて創作させる。 ・毎回の授業で準備運動として踊ることになるので、クラスのオリジナリティーがでるようなダンスができるように声をかける。
3	様々なリズムのダンス ・同じ動きをサンバ・ロック・HIPHOP の曲で踊る	・リズムの違いを感じて、曲によって踊るように伝える。
4	ダンス ・定型のダンス (安室奈美恵「Fight Together」)	・全身を使って仲間と楽しく踊ることができるようにする。
5	HIPHOP のダンス ・アイソレーション ・定型のダンス (TLC「Creep」)	・HIPHOP を踊る際に、基本となる動きであるアイソレーションについて理解させる。難しい動きであるが、ダンスの中で意識して踊るように伝える。
6 7 8 9	グループ創作 ・グループ編成 ・選曲・テーマ決め ・グループで一つの作品を創る	・6～8 人ほどのグループを編成し、それぞれ係を決めて活動させる。 ・グループの中で自分の役割を果たすことで、協力して良い作品になるように声をかける。
10	グループ発表会 ・グループ発表会 ・他のグループを見て評価をする	・発表会なので、自分のダンスを自信を持ってみんなの前で踊るように伝える。 ・他のグループの良いところをお互いに評価できるようにする。

表 4. ダンスの楽しさ (N : 90)

	アンケート項目	全くそう 思わない	そう 思わない	そう思う	とても そう思う
1	そのものになりきって踊るのが楽しい	4 (人)	14	51	21
2	からだをいっぱいに使って思い切り踊れるのが楽しい	3	7	43	37
3	いつもの自分と違った自分になれる	3	41	30	16
4	自分の友達の新しい一面や意外な一面を発見できる	3	19	45	23
5	いろいろな音楽のリズムによって踊るのが楽しい	3	7	30	50
6	リズムの取り方や動きを工夫して踊るのが楽しい	5	17	40	28
7	決められたステップを覚えて踊るのが楽しい	1	8	53	28
8	思いつくまま次々と自由に踊るのが楽しい	6	28	38	18
9	思いがけない動きやアイデアが偶然でてくるのが面白い	4	28	43	15
10	いろいろな感じやイメージを動きで表現するのが楽しい	3	23	45	19
11	表現の仕方や動き方をいろいろ工夫するのが楽しい	5	22	40	23
12	作品ができあがった時に達成感を感じることができる	3	7	26	54
13	既成の創作作品を覚えて踊るのが楽しい	4	4	42	40
14	友達と自由に関わりあいながら一緒に踊るのが楽しい	3	3	36	48
15	友達と意見を出し合って協力して作品を作るのが楽しい	3	11	49	27
16	人が踊ってるのを見るのが楽しい	4	4	38	44
17	自分の踊りを人に見てもらうのが楽しい	14	38	29	9
18	仲間との一体感を感じることができるのが楽しい	3	4	44	39
19	ほかの種目にはない動きのおもしろさがある	4	12	44	30

4. まとめにかえて

参加者からは以下のような感想が寄せられた（一部、抜粋）。これらを基に、今後教育プログラムの開発に取り組んでいきたい。

- ・中学校におけるダンス必修化に伴い、小学校ではどう考えたらよいだろうかと漠然と考えていた。答は出ないが、今後の糸口になったと思う。理論と実践が一体となっている様子が映像を通じてわかりやすく、身近なイメージで伝わってきた。授業実践に向けて少しハードルを越えたような気がする。（小学校教員）。

- ・小学校・高校の実践も非常に参考になるものがあり勉強になった。中学1、2年、3年としっかり計画をたてて系統性をもって授業を行いたいと思った（中学校教員）。

- ・小～高までの授業実践を具体的に知ることは指導者としてとても必要なことなので、たいへん勉強になった（中学校教員）。

- ・今回の研究の趣旨やアンケート結果からの考察がよく分かった。特に指導者側の実態を知る機会となった（中学校教員）。

- ・高校は「現代的なリズム…」という年計の内容だ

ったが、現実的にはこういう学校が多いのではないかと感じる。高校は様々な学校から、様々な生徒が来るので難しい、大変さの中での実践、授業であると感じた。…小・中・高・大学、それぞれの学校種が担う役割、特色がはっきりわかる、その連携の重要性がよく伝わるすばらしい研究会だった（中学校教員）。

- ・1 カテゴリーから次のカテゴリーへ移行する時の「流れ」または「つなぎ」を強化するためにも、各カテゴリーでの情報の共有は大変有意義だと思った（高校教員）。

- ・小山市の取組がすばらしい。この生徒達は「ダンス」の楽しさを十分に実感したであろう（高校教員）。

- ・リズムダンスもよいが、自己表現、喜怒哀楽も含めて創作ダンスは必須だと思っているが、指導力不足を感じている。たくさん研究会が必要と感じている（高校教員）。

- ・小中の教材は多いが、やはり高校で参考のできる教材が少なく感じる。また、あまり自分自身、ダンスが得意でないので、そういった場合にどういう指導方法の工夫ができるのか実践例などあれば参考にしたいと思った（高校教員）。